AIオンデマンド交通（CHAIのり号）の運賃（案）に関するアンケートについて

1　実施期間

令和８年６月22日（金）～令和８年７月12日（日）

2　意見数（意見提出者数）

16件（16人）

3　意見の概要と市の考え方

寄せられた御意見は、①運賃水準・料金体系、②利用者への配慮、③制度の定着・持続可能性、④説明・周知・進め方、の４つの観点に分けられます。

No.	意見	回答
1	5㎞超で800円とする運賃設定は高く、現行の路線バスや実証実験時の運賃と比べても値上げ幅が大きい。利用しやすい公共交通とするためには、500円程度の水準や、主要目的地までの負担を抑えた料金設定、距離区分や上限額の見直し、定額制を含めた分かりやすい料金体系とすることが望ましい。	AIオンデマンド交通は、予約に応じて自宅近くの乗降ポイントから目的地近くまで移動できるなど、路線や時刻が固定された路線バスとは異なる利便性を有する交通手段です。一方で、予約受付、配車調整、車両の確保などに係る経費が必要となるため、運賃については、路線バスより高く、タクシーより安い水準を基本的な考え方として検討しています。 また、運賃設定に当たっては、実証実験の結果、運行経費、利用見込み、運行効率、既存公共交通との役割分担、他市の類似事例、利用者にとっての分かりやすさ、持続可能な運営との両立を総合的に勘案しています。 いただいた御意見のとおり、運賃は利用しやすさに大きく影響するため、今後も利用状況や御意見を踏まえながら、分かりやすく利用しやすい制度となるよう検証してまいります。
2	運賃が高すぎると既存利用者が離れ、新たな利用者も増えにくくなり、制度が定着しない。一方で、安すぎると事業継続が難しくなるため、利用しやすさと採算性の両立が求められることから、事業として持続可能な経営が成り立つ水準に設定していただきたい。 運賃については、タクシーと比較すれば大幅に安価であることを踏まえ、時間をかけて目的地へ向かう路線バスと比較するべきではない。 また、継続利用者への特典付与や、繰り返し利用しやすい仕組みづくりも求められる。	AIオンデマンド交通を地域の移動手段として定着させていくためには、利用しやすさと持続可能な運営の両立が重要であると考えています。実証実験では、長距離の移動予約が入ると１台の車両が長時間占有され、他の予約への対応が難しくなることや、運行エリアの設定によっては対応可能な予約件数が減少し、運行効率が低下することが課題として確認されました。 こうした点を踏まえ、一定の利用者負担をお願いする必要がありますが、一方で継続利用しやすい仕組みも重要です。そのため、乗車クレジットによる利用促進策を導入し、継続的に利用される方の負担軽減につなげていきます。

		今後も、運行開始後の利用状況や利用促進策の効果を確認しながら、より多くの方に利用していただける制度となるよう検証してまいります。
3	物価上昇が続く中で、交通費の負担増は家計への影響が大きい。特に、高齢者、年金生活者、学生、通院・通学・買い物などで日常的に利用する人にとっては、運賃の上昇が生活に直結する負担となる。掛川駅、中東遠総合医療センター、高校など、利用の多い主要目的地への移動については、特に利用しやすい料金設定が求められる。	高齢者の通院や買い物、学生の通学や雨天時の移動など、日常生活に必要な移動を支えることは、本事業の重要な役割であると考えています。利用者負担については十分配慮すべきものと認識しており、制度設計に当たっては、利用しやすさと事業継続の両面を踏まえて検討しています。 なお、通学時間帯については、朝の時間帯に路線バス（桜木線）を往復１便運行する予定であり、この便には片道定期券を設定します。また、AI オンデマンド交通については、継続利用される方の負担軽減を図るため、乗車クレジットによるお得な利用制度を導入する予定です。 今後も、主要目的地への利用実態や高齢者・学生等の利用ニーズを把握しながら、利用しやすい制度となるよう努めてまいります。
4	運賃のように生活への影響が大きい内容については、ホームページ掲載だけでなく、地域への丁寧な説明や、より多くの住民の声を集める進め方が必要である。	昨年度の実証実験結果については、４月の区長会に参加し御報告いたしましたが、区長会に参加されていない皆様には、市ホームページでの報告が中心となり、十分に情報をお届けできなかったことをおわび申し上げます。 今後は、ホームページだけでなく、広報紙や地区への情報提供など、複数の方法による周知に努めるよう改善してまいります。